

## 研究会

# 公共サービス と協同労働

第2回

日時 2003年11月29日(土) 13:30～16:30

会場 日本労協連小会議室

## ワーカーズコープの保育事業と民営化

いしごうおか

石郷岡しずか(労協センター事業団保育園事業所)

### センター事業団保育園事業所の概要

労協には10年くらい前に入ったんですが、労協の保育園事業所っていうのは私が入る10年くらい前、今から22年前に東京都老人医療センターから委託を受けて院内保育所として「ひまわり保育園」を開設しました。その1年後に「たんぼぼ保育園」(都立多摩老人医療センター)それから1990年に日大板橋病院から委託を受けて「日大保育所」が開設しました。委託という厳しい職場の中でもみんなで討論しながら運営してきたんですけど、各病院とも経営が厳しく年々委託料が切り下げられていくんですよ。桐島先生のお話にもありましたが、私たちも院内保育所で無認可と同じなんですけど、委託料で事業をまかなっているものだから、無認可よりも低い金額なんです。子どもの数によって委託料も変わってくるので、少子化で院内保育所の子どもも年々少なくなっているということでは、委託料はどんどん切り下げられていくし、毎年子どもの数も違うし、4月当初は無認可と同じように子どもがほとんどいない状況で、上半期3ヶ月くらいは子どもがいない状況の方が多く

なってきたんですね。それから毎年毎年、委託がどうなるかっていうのがすごく不安になります。年度末になると来年度委託してもらえるかなっていう不安



の声が聞こえたりっていう、そういう職場です。また、今年度より公務員の育児休暇が3年に延長されたことで、今後、保育園の入所人数も減少が予想されており、最終的には東京都の老人医療センターが民営化されるということで、無くなるか豊島病院に吸収されていく方向になっているので、私たちの保育園もいずれはなくなるんじゃないかと思っています。

そういう中で自分たちで何か事業をつくっていかなくちゃいけないと会議でも話されていました。でも、いざとなるとどんなふうにしていいかわからず上手くいかなかったんです。1998年に在宅保育支援事業

の「あざみ」を立ち上げました。これは板橋区の中で活動をしてきたんですが、このことで板橋区から活動を認められ、板橋第一小学校の学童クラブを委託を受けられるようになりました。それから、2001年にプロポーザルで東京都の児童会館「のびのび広場」を受託しました。今年2003年には志村第一小学校をプロポーザルで委託を受けました。それから今年と同時に、青井兵和学童クラブも開始しました。これは補助金でやれるようになったんですけど、そういう形で、自分たちが保育園の中でずっと仕事してきたのを、外に目を向けることで行政から認められて、少しずつ事業が広がってきたというのが私たち保育園事業所の流れです。

## 保育の民営化の背景

保育の民営化が進められていく背景を自分なりに整理してみました。保育園の待機児童が、保育園を建てても建てても減らないのは、今は男の人を中心にすごいリストラされているじゃないですか。その受け皿に女性がパートで働くようになっていて、そうするとどんどん子どもを預けないとならない、そういう仕組みになっているんですね。だから待機児童が減らないで逆に増えている。そのための保育園づくり、安いコストでやれるような保育園っていうことで民間委託を進めているってということなんです。生活を夫だけでは支えきれない家庭が増えているから私たち女性の働き方が、桐島先生がおっしゃってましたように、長時間労働をやらざるを得なくなっている。そのことで長時間預かる保育園が必要になって、いま私たちがプロポーザルでやろうとしている保育園なんかもみんな色々な長時間が

あったり休日保育があったり、病児保育があったり、一時保育があったりとか、そういう色々なニーズが入った保育園が求められているんです。それから民間委託の保育園をなぜつくるかといったら、コストを削減するのと、最大の受入ができる保育園を実現させたいということで、どんどん進められているんです。それから調理なんかも調理室があって、それこそ子どもたちが、お昼ぐらいになるといい匂いが調理室からただよってきて「お腹空いたな」なんていう保育園だったのが、調理業務もどんどん委託が進んでいるんですね。今までは保育園の中に調理室が無ければならなかったのが、今度は外でも良くなるんですって。だからまったくの他の業者がお弁当みたいなものを持ってきてそれを子ども達が食べるっていう。保育園もだんだんそういう方向で民営化が進められているわけです。

## 新しい取り組みの中で

自分たちが運営している保育園の存続が危ぶまれるっていうなかで、外にむけて活動していかなくちゃいけないっていうことで、いろいろなことに挑戦するようになりました。今年は板橋区に「どんぐりのおうち」も開設するようになりました。午前中が親子広場で、午後が一時保育をしているんですが、これは板橋区の「はつらつ親子の広場事業」っていう補助金ができたんですね。それで、その補助金で運営するようになりました。1ヶ月くらいは人が来なかったんですけど、今は1日8から12組くらいのお母さんとお子さんが遊びに来てくれるようになりました。週に1回か2回は手作りのおやつを作ったり、あとは手遊びとかして、お母さんと子どもと一緒に遊んだりなんですけ

ど、そういう中で、お母さんが自分たちの育児のことが不安に思っているのが気楽に話ができるそうなんです。それで感極まって泣いちゃったりするシーンもいっぱいあります。

最近では18才の高校中退の方が妊娠して出産して、いま7ヶ月のお子さんがいるんですが、その子が育児ができないというので悩んで来たんですね。お母さんもいるんですけど、お母さんも来て「あなたが育児したくないから預けるんでしょう」みたいな話をスタッフと4人くらいで本音のところを聞いたりしながら、どうやって援助したらいいかとかを話したりして。それで、「じゃあお母さんが保育料を出すから週に何回か預けてみなさい」ということで預かるようになって、結果的に今は来なくなりました。それは少しずつ自信が持ててきて、自分で育てられるようになったからじゃないかっていうことなんですけど。

それから、立川市から依頼が来て、子育て調査をやったんです。そこで子育てをしている人の悩みなどを調査結果で知ることができて、私たち、そういうところからもこれからも保育の仕事をどうやって続けていこうかって、まあ手探りなんですけど、確信を持てるようになってきました。市民の人と一緒に労協運動をやりながら保育所をつくっていきたいと思っています。

### 委託に挑戦していく目的

委託に挑戦するのは何故かというのは、やっぱり今の現状に甘えていては何もできないから挑戦していきたいということです。それから自分たちが企画書の中でテーマにしているんですけど、桐島先生がおっしゃるように、子育てとか地域にネットワーク

をつくっていくっていうのが理念として書いてあるんですが、そういうことをこれから中心に据えて、地域の人と交流してコミュニケーションをとって子どもが育っていくこと、保育園を通して親が育っていくこと、働く者が育っていく、生活や社会や文化が豊かになることをめざして運営していきたいなと思っています。

おかげさまで現在、最初からある院内保育所が3ヶ所、あと児童会館を東京都から受託していることと、学童クラブが2ヶ所、それから足立区からの補助金で運営しているところが「わくわくクラブ」というんですけど、それが1ヶ所、それから親子広場が1ヶ所「どんぐりのおうち」ですね。それから自主事業で「あざみ」を運営しています。来期からの新規事業として板橋区から高島平第七小学校の学童クラブを板橋区の中で3つ目の学童クラブとして受託することになります。それから足立区では「わくわくクラブ」を補助金でやっているんですけど、その評価をされて、島根学童クラブ受託することが決まりました。それから新宿区より児童館と学童クラブの併設したところを2ヶ所の委託が決定しました。榎木町の児童センターと早稲田南子ども館なんですけど、これを受託したことで、また新たな児童館の可能性が広がっていくと思います。それから2005年度から、板橋区坂下第二保育園を受託しました。これからも色々な形で広がっていきたいと思っています。